

「第2次北蒲みなみ米ステップアップ運動展開中！」

# 北蒲みなみ米栽培指針

【コシヒカリ】

～売れる米づくりをめざして！～

 平成16年3月  
J A 北 蒲 み な み

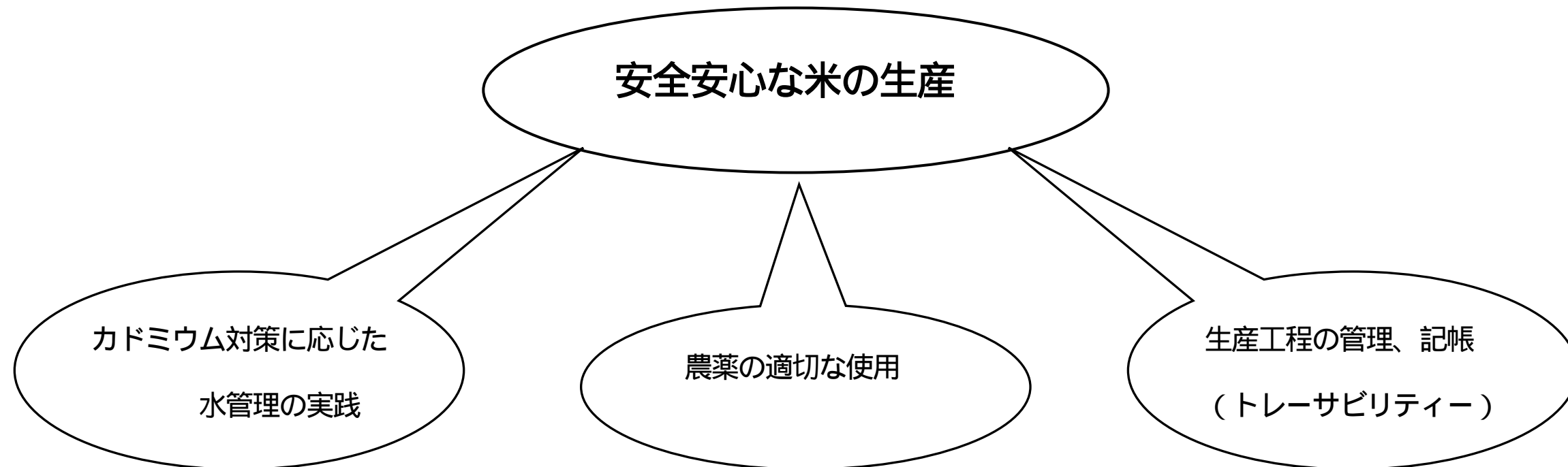
## 第2次北蒲みなみ米ステップアップ運動

### 目 的

新潟米は気象の温暖化等による、出穂期の早まりから高温登熟や、近年のカメムシ被害等により品質の低下を招いています。特に平成11年度は、過去10年間で最悪の品質になったところであり、平成12年産は、懸命な努力により、品質の大幅な改善がはかられたものの、景気低迷による消費者の低価格嗜好等の浸透により、新潟米に対する需要の回復には致っておらず、「北蒲みなみ米」が将来とも消費者ニーズに合い、信頼され、売れる米であり続けるには、品質食味を重視し、基本技術を励行した栽培により高品質米の安定生産を目指す必要があります。

また、今後は販売動向を加味した水稻作付面積生産数量の配分へと移行し、ますます売れる米づくりが求められ、その対応が急務となっています。

このような背景のなか、各集落における良質米の安定生産と品質・食味の高位平準化を目指し平成13年度から「北蒲みなみ米ステップアップ運動」に取り組んできたところであり、引き続き平成16年度より「第2次北蒲みなみ米ステップアップ運動」に取り組み、北蒲みなみ米の高位平準化を目指します。



## カドミウム対策

現在、国際的な食品規格を制定する国際機関であるコーデックス委員会において、食品のカドミウム基準値が検討されています。特に、米については現在の国内基準に比べ大変厳しい基準値が検討されています。一方、消費者においては、安全・安心指向の高まりから、カドミウム含有問題に対する関心が高くなっています。

消費者に支持される安全・安心で高品質な売れる米づくりが強く求められているなか、生産者の全面的な理解と協力によるカドミウム吸収抑制対策の徹底が、消費者の信頼維持及び農家経営の安定にとって重要な課題となっています。

### 1. 水稲のカドミウム吸収

カドミウムは土壌の酸化、還元状態によって水稲への吸収が異なります。

土壌は、生育前半は湛水により還元状態ではあるが、中干し以降、乾燥して酸化状態となることにより、カドミウムは稲に吸収されやすい性質の硫酸がカドミウムとなります。

### 2. 米におけるカドミウム濃度の基準値

< 1.0 ppm以上のもの >

- 食品として流通させることができず、政府買入の対象にならないため、基準値を超える玄米は食用以外の用途での処理や焼却処分されます。

< 0.4 ppm以上のもの >

- 食品衛生法では、1.0 ppm未満であれば、食品としての販売は制限されていないものの、0.4 ppm以上1.0 ppm未満のものは消費者感情等を考慮して、食用以外の用途に売り渡しされることとなります。

< カドミウム国際基準値の検討 >

- 国際的な食品規格などの作成を行うコーデックス委員会（日本も加盟）において、米の基準値を0.2 ppmに見直すことが検討されています。

### 3. カドミウムの吸収抑制(県における平成15年度調査結果)

< カドミウム吸収抑制は水管理が最も重要です。 >

- ようりん等の吸収抑制資材を使用しても、出穂前後各25日、計50日間湛水管理を行わないと、例え雨天が続いたとしても、米のカドミウム濃度は高くなり、吸収抑制の効果は現れません。

(調査結果)

同じ地区内でようりん、ケイカル400kg/10aを施用した場合

水 管 理	玄米カドミウム濃度
出穂前後各25日間、湛水状態を維持	0.02 ppm
雨天が続いたとして、落水状態のまま	0.32 ppm

- 土壌中のカドミウム濃度が低くても、出穂前後の25日間に湛水管理をしないと米のカドミウム濃度は高くなることから、どこのほ場においても高濃度になる危険性があります。
- 土壌中のカドミウム濃度が高くても、出穂前後各25日間に湛水管理をすれば米のカドミウム濃度を0.02 ppm未満に抑えることができます。

(調査結果)

土壌中カドミウム濃度	出穂前後各25日間の水管理	玄米カドミウム濃度
0.30 ppm	ほとんど落水状態	0.30 ppm
0.42 ppm	湛水状態を維持	0.03 ppm

~ 安全・安心な北蒲みなみ米づくりに取り組みましょう!! ~

## 北蒲みなみ米栽培指針～粘質土壌(湿田)～

### 【土壌の特徴】

粘質系の湿田では、地力が高く生育過剰になりやすいため、倒伏に注意した施肥管理が重要です。乾田にくらべ田がワキやすく根腐れしやすいため、適正な水管理を実施し根の健全化を保つことが重要です。

### 【土づくり】

異常気象時において、品質・収量の安定している地域や圃場は地力の高いところであることがわかっています。地力増進の基本はリン酸・ケイ酸・有機物の積極的な施用です。

稲わらの秋施用は、堆肥施用と同等の「土づくり」の効果が期待できます。(可能な圃場では秋すき込み)稲わらは焼かずにすき込みましょう。

「ソイル元気」はリン酸・ケイ酸・苦土・加里を一度に施用できる土づくり肥料です。「ソイル元気」の施用により変動気象に負けない土づくりをしましょう。

### 【種子更新】

食の安全・安心を求める消費者意識の高まりや、JA米の生産に向けては、生産地の明らかな採種圃場の使用が不可欠となっていることから、100%種子更新をしましょう。

### 【適期播種・移植】

高温登熟による品質低下を回避するため、適期播種・適期移植の実施に努めましょう。

- ・ 播種期：4月20日以降(乾もみ150gの薄まき)
- ・ 移植期：5月10日以降
- ・ 規格苗：稚苗2.0葉

### 【適正な生育量の確保(過剰生育の防止)】

疎植、少植込みで過繁茂の防止と茎質向上に努めましょう。

- ・ 基本50株/坪植え
- ・ 1株植付本数3～4本を徹底  
中干し・溝切りで確実な生育調節を実施しましょう。
- ・ 中干し・溝切りはやや早めに、平均1株茎数18～19本を確保した時点で実施しましょう。
- ・ 中干しは強く行わない。強度の中干しは土壌の酸化状態を強め、カドミウムの吸収を促進するので、土が湿っていて足跡がつく程度にしましょう。
- ・ 中干しの日数は7～10日程度にとどめ、遅くとも6月末までに中干しを終了しましょう。

### 【安全・安心な米の生産】

カドミウム対策に応じた水管理の実践

- ・ 中干しは土が湿っていて足跡がつく程度にしましょう。強い中干しは土壌の酸化状態を強め、カドミウムの吸収を促進するので、強く行わない。
- ・ 出穂前3週間から出穂後3週間までは、常に水が張られ田面が露出しない状態を保つ。湛水管理にしましょう。

農薬の適切な使用

- ・ 「農薬のラベル」に記載された適用作物・使用量・濃度・使用時期・使用総回数と使用方法を必ず確認の上、使用しましょう。「農薬使用者」の責任を理解し、「農薬使用基準」の遵守に努めてください。

生産工程の管理、記帳(トレーサビリティ)

- ・ 栽培管理記録簿は農産物の身分証明書です。実施した作業、使用した肥料・農薬・資材を漏れなく記帳することが基本となります。

### 【病害虫防除の徹底】

- ・ いもち病が発生しやすい圃場では、予防的な薬剤散布を実施しましょう。
- ・ カメムシ対策のため、一斉草刈、薬剤防除(共同防除+個人防除)を徹底しましょう。

### 【しっかり調整で全量1等米】

米選機の流量が多すぎると選別制度が低くなり未熟粒の混入が多くなります。米選機の流量設計値を確認し、設計値よりやや少なめの流量で選別してください。(ふるい目は1.85mm)

「北蒲みなみ米」生育目標

	コシヒカリ
収量	530kg
玄米タンパク含有率	6.0%以下
整粒歩合	85%以上
穂数	380本/m <sup>2</sup>
一穂粒数	74粒
登熟歩合	84%
千粒重	22.5g

粘質土壌(湿田)地帯の施肥設計の目安(例)

肥料名		施肥量(kg)	N	P	K	摘要
元肥	ソイル元気2号 みなみエース配合	40 30~35	2.4~2.8	4.4 4.5~5.3	5.0 4.5~5.3	全層施肥 全層施肥
追肥	マルチサポート	20	苦土15% ケイサン12%			出穂前40日
穂肥	みなみエース穂肥	10~15	1.0~1.5	0.5~0.8	1.0~1.5	出穂前18日
	みなみエース穂肥	7~10	0.7~1.0	0.4~0.5	0.7~1.0	出穂前10日
合計			4.1~5.3	9.8~11.0	11.2~12.8	

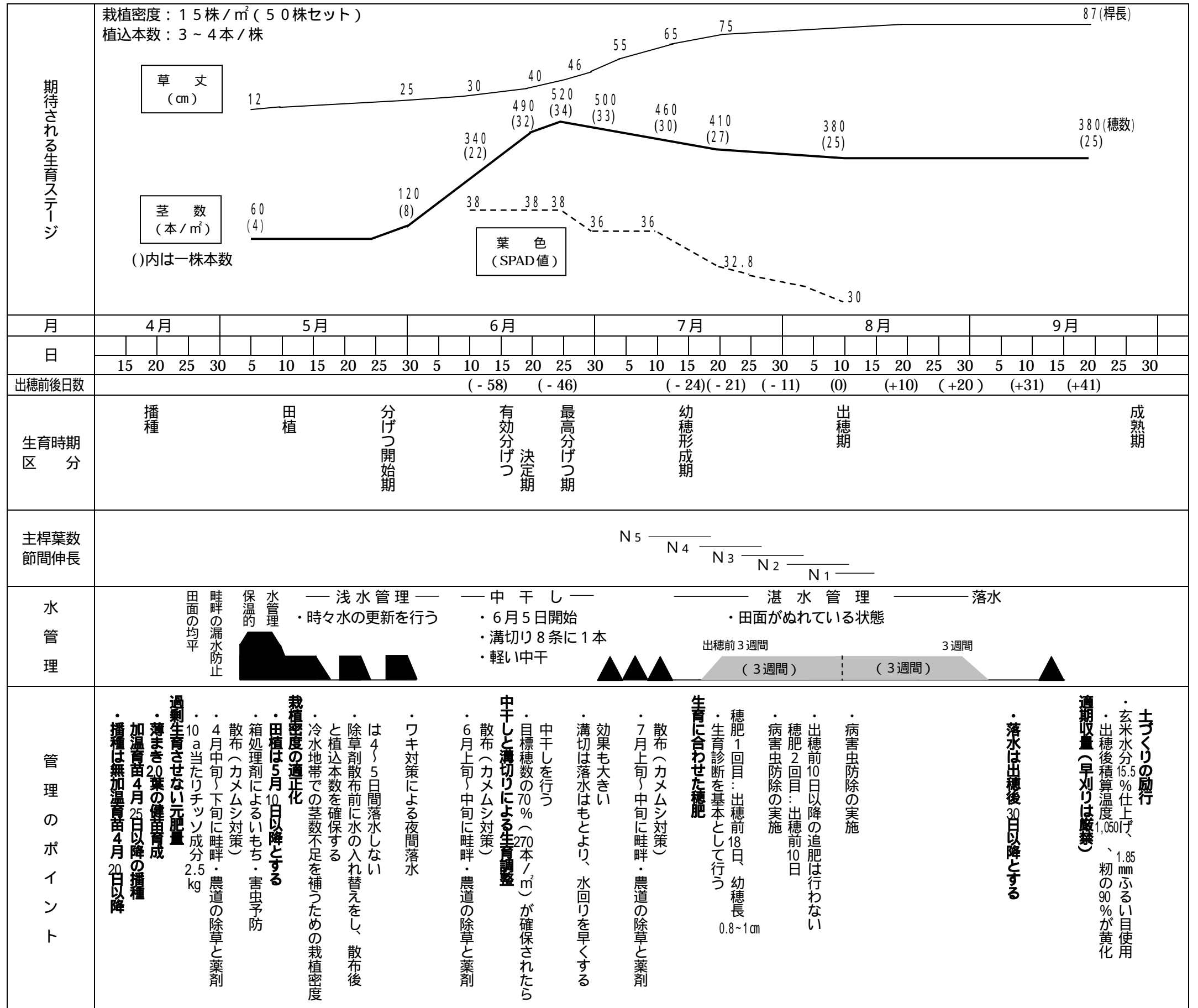
側条施肥の場合の元肥量の目安

品種	肥料名	施肥量	N	P	K
コシヒカリ	みなみエース側条	20~23	2.4~2.8	3.6~4.1	3.2~3.7

# 「コシヒカリ」栽培ごよみ ~ 粘質土壌(湿田) ~

目 標 収 量 構 成 要 素	収量 (kg / 10a)	530		
	株数 (株 / m <sup>2</sup> )	15		
	穂数 (本 / m <sup>2</sup> )	380		
	一穂粒数 (粒)	74		
	総粒数 (千粒)	28		
	登熟歩合 (%)	84		
生育のめやす	稈長	87	上位3葉身長	100
	3節間長	16	止葉身長	24
	4節間長	10	2葉身長	36
	5節間長	4	3葉身長	40
	千粒量 (g)	22.5		

コシヒカリの品質目標	
項目	目標値
タンパク質含有率	6.0% (水分15%)
整粒歩合	85%以上
1等米比率	100%



## 北蒲みなみ米栽培指針～砂質土壌（乾田）～

### 【土壌の特徴】

砂質系の乾田ではリン酸やケイ酸が不足し、地力が低く秋落ちしやすいため、土づくりを中心とした施肥管理が重要です。

湿田に比べ保水力が低く湿潤管理(常に表土が湿っている状態)が難しいため、稲がカドミウムを吸収しやすい条件にあります。カドミウム対策に応じた水管理及び資材の投入が重要となります。

### 【土づくり】

異常気象時において、品質・収量の安定している地域や圃場は地力の高いところであることがわかっています。地力増進の基本はリン酸・ケイ酸・有機物の積極的な施用です。

稲わらの秋施用は、堆肥施用と同等の「土づくり」の効果が期待できます。稲わらは焼かずにすき込みましょう。

「ソイル元気」はリン酸・ケイ酸・苦土・加里を一度に施用できる土づくり肥料です。「ソイル元気」の施用により変動気象に負けない土づくりをしましょう。

### 【種子更新】

食の安全・安心を求める消費者意識の高まりから、生産地の明らかな採種圃産の使用が不可欠となっています。100%種子更新をしましょう。

### 【適期播種・移植】

高温登熟による品質低下を回避するため、適期播種・適期移植の実施に努めましょう。

- ・ 播種期:4月20日以降(乾籾150gの薄播き)
- ・ 移植期:5月10日以降
- ・ 規格苗:稚苗2.0葉

### 【適正な生育量の確保（過剰生育の防止）】

疎植、少植込みで過繁茂の防止と茎質向上に努めましょう。

- ・ 基本60株/坪植え
- ・ 1株植付本数3～4本を徹底  
中干し・溝切りで確実な生育調節を実施しましょう。
- ・ 中干し・溝切りはやや早めに、平均1株当たり茎数16～17本を確保した時点で実施しましょう。
- ・ 中干しは土が湿っていて足跡がつく程度にしましょう。強い中干しは土壌の酸化状態を強め、カドミウムの吸収を促進するので、強く行わない。
- ・ 中干しの日数は7～10日程度にとどめ、遅くとも6月末までに中干しを終了しましょう。

### 【安全・安心な米の生産】

カドミウム対策に応じた水管理の実践

- ・ 中干し後から幼穂形成期(出穂前25日位)までの間は、常に表土が湿っている状態(ヒタヒタ水の状態)を保つ。
- ・ 幼穂形成期(出穂前25日位)から出穂後25日位までは、常に水が張られ田面が露出しない状態を保つ湛水管理にしましょう。

農薬の適切な使用

- ・ 「農薬のラベル」に記載された適用作物・使用量・濃度・使用時期・使用総回数と使用方法を必ず確認の上、使用しましょう。
- ・ 「農薬使用者」の責任を理解し、「農薬使用基準」の遵守に努めてください。

生産工程の管理、記帳(トレーサビリティ)

- ・ 栽培管理記録簿は農産物の身分証明書です。実施した作業、使用した肥料・農薬・資材を漏れなく記帳することが基本となります。

### 【病害虫防除の徹底】

- ・ いもち病が発生しやすい圃場では、予防的な薬剤散布を実施しましょう。
- ・ カメムシ対策のため、一斉草刈、薬剤防除(共同防除+個人防除)を徹底しましょう。

### 【しっかり調整で全量1等米】

米選機の流量が多すぎると選別制度が低くなり未熟粒の混入が多くなります。米選機の流量設計値を確認し、設計値よりやや少なめの流量で選別してください。(ふるい目は1.85mm)

### 「北蒲みなみ米」生育目標

	コシヒカリ
収 量	500kg
玄米タンパク含有率	6.0%以下
整 粒 歩 合	85%以上
穂 数	370本/m <sup>2</sup>
一 穂 粒 数	72粒
登 熟 歩 合	84%
千 粒 重	22.5g

### 砂質土壌（乾田）地帯の施肥設計の目安（例）

#### コシヒカリ

肥 料 名		施肥量 (kg)	N	P	K	摘 要
元肥	ソイル元気2号 みなみエース化成	60 35～40	2.8～3.2	6.6 4.9～5.6	7.5 4.9～5.6	全層施肥 全層施肥
追肥	マルチサポート	20	苦土15% ケイサン12%			出穂前40日
穂肥	みなみエース穂肥	10～15	1.0～1.5	0.5～0.8	1.0～1.5	出穂前18日
	みなみエース穂肥	7～10	.07～1.0	0.4～0.5	0.7～1.0	出穂前10日
合 計			4.5～5.7	12.4～13.5	14.1～15.6	

#### 側条施肥の場合の元肥量の目安

肥料名	施肥量	N	P	K
みなみエース側条	23～27	2.8～3.2	4.1～4.9	3.7～4.3



平成16年産コシヒカリ栽培指導基準

JA名:北蒲みなみ

地区名:水原

栽培形態:一般栽培

○この指導基準は安全・安心で高品質・良食味な米を生産するために、地域の実態に即してJA等で作成しました。  
 ○この指導基準を目安とした栽培を基本としますが、ほ場条件や気象要因等により基準とは多少相違する栽培となってもよいです。  
 ○使用する肥料・農薬はJAで適正な品目を推奨していますが、推奨品目以外でも同様に適正な品目であれば使用してもよいです。

栽培管理	3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
			浸種	元肥施用	育苗床土準備	育苗覆土消毒	耕起	農道・畦畔除草	代かき	田植え・ドロオイムシ・いもち病防除	水田除草剤散布	中干し	溝切り	農道・畦畔除草	追肥	農道・畦畔除草	穂肥施用	穂肥施用	いもち・紋枯れ・カメムシ防除	カメムシ防除	農道・畦畔除草	落水	収穫	稲わら鋤き込み				

推奨肥料と施肥基準

記号	肥料名	成分	施肥基準 (kg - 10a)	備考
		N - P - K		
	ソイル元気2号	0-11-12.5-Mg3.0 ケイサン19.0	40	
	みなみエース配合	8-15-15-Mg3.0 有機6%	35	
	みなみエース化成	8-14-14-Mg4.0 有機20%	35	
	みなみエース側条	12-18-16-Mg3.0 有機6%	24	側条用
	育苗床土			
	稚苗苗代配合	4-6-5-Mg1.0		
	マルチサポート	Mg15.0 ケイサン12.0	20	
	みなみエース穂肥	10-5-10 有機10%	10	
	みなみエース穂肥	10-5-10 有機10%	10	

推奨農薬と農薬取締法に基づく農薬使用基準

記号	薬品名	農薬使用基準			散布方法
		希釈倍数・散布量(10a当り)	使用時期	使用回数	
A	テクリードCフロアブル	200倍・24時間種子浸漬	浸種前	1回以内	
B	タチガレエース粉	6g / 箱	播種前	1回以内	
C	ダコニール粉	8g / 箱(覆土混和)	播種前	1回以内	
D	Dr.オセプリンス粒	50g / 箱	移植前3~当日	1回以内	育苗箱処理
E	スパークスター1号粒	1kg	移植後5~15日	1回以内	
	ジョイスターフロアブル	500m	移植後5~20日	1回以内	
F	ラウンドアップハイロード	薬量250~500m	収穫14日前まで	2回以内	
	三共の草枯らし	薬量500~1000m	収穫14日前まで		
G	バスタ	薬量500~1000m	収穫7日前まで	2回以内	
H	ブラシンジョーカーフロアブル	8倍・800m	収穫21日前まで	2回以内	R・Cヘリ共同防除
I	スタークル粉DL	3kg	収穫7日前まで	3回以内	個人防除







平成16年産コシヒカリ栽培指導基準

JA名:北蒲みなみ

地区名:水原

栽培形態:特別栽培農産物

- この指導基準は安全・安心で高品質・良食味な米を生産するために、地域の実態に即してJA等で作成しました。
- この指導基準を目安とした栽培を基本としますが、ほ場条件や気象要因等により基準とは多少相違する栽培となってもよいです。
- 使用する肥料・農薬はJAで適正な品目を推奨していますが、推奨品目以外でも同様に適正な品目であれば使用してもよいです。

栽培管理	3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月								
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下						
		【種子更新】	種子消毒A 浸種	元肥施用	育苗床土準備 B	育苗覆土準備	耕起	は種	農道・畦畔除草D	代かき	田植え	水田除草剤散布C	農道・畦畔除草E	中干し	溝切り				穂肥施用	穂肥施用				いもち・紋枯れ・カメムシ防除G	落水		収穫			稲わら鋤き込み			

推奨肥料と施肥基準

記号	肥料名	成分	施肥基準 (kg - 10a)	備考
		N - P - K		
	ソイル元気2号	0-11-12.5-Mg3.0 ケイサン19.0	40	
	みなみエース配合	8-15-15-Mg3.0 有機6%	35	
	みなみエース化成	8-14-14-Mg4.0 有機20%	35	
	みなみエース側条	12-18-16-Mg3.0 有機6%	24	側条用
	育苗床土			
	稚苗苗代配合	4-6-5-Mg1.0		
	マルチサポート	Mg15.0 ケイサン12.0	20	
	みなみエース穂肥	10-5-10 有機10%	10	
	みなみエース穂肥	10-5-10 有機10%	10	

推奨農薬と農薬取締法に基づく農薬使用基準

記号	薬品名	農薬使用基準			散布方法
		希釈倍数・散布量(10a当り)	使用時期	使用回数	
A	テクリードCフロアブル	200倍・24時間種子浸漬	浸種前	1回以内	
B	タチガレエース粉	6g/箱	播種前	1回以内	
C	ジョイスターフロアブル	500m	移植後5~20日	1回以内	
D	ラウンドアップハイロード	薬量250~500m	収穫14日前まで	2回以内	
E	三共の草枯らし	薬量500~1000m	収穫14日前まで	2回以内	
F	バスタ	薬量500~1000m	収穫7日前まで	2回以内	
G	ブラシンジョーカーフロアブル	8倍・800m	収穫21日前まで	2回以内	R・Cヘリ共同防除



平成16年産こしいぶき栽培指導基準

JA名:北蒲みなみ

地区名:水原

栽培形態:一般栽培

○この指導基準は安全・安心で高品質・良食味な米を生産するために、地域の実態に即してJA等で作成しました。  
 ○この指導基準を目安とした栽培を基本としますが、ほ場条件や気象要因等により基準とは多少相違する栽培となってもよいです。  
 ○使用する肥料・農薬はJAで適正な品目を推奨していますが、推奨品目以外でも同様に適正な品目であれば使用してもよいです。

栽培管理	3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月							
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下								
		【種子更新】	種子消毒A	浸種	元肥施用	土づくり資材の施用	育苗床土準備	育苗覆土消毒C	は種	耕起	農道・畦畔除草F	代かき	田植え・ドロオイムシ・いもち病防除D	水田除草剤散布E	中干し	溝切り	追肥	農道・畦畔除草F	穂肥施用	農道・畦畔除草G	カメムシ防除H	穂肥施用	カメムシ防除H	いもち・紋枯れ・カメムシ防除H	農道・畦畔除草G	カメムシ防除I	落水	収穫	稲わら鋤き込み			

推奨肥料と施肥基準

記号	肥料名	成分	施肥基準 (kg - 10a)	備考
		N - P - K		
	ソイル元気2号	0-11-12.5-Mg3.0 ケイサン19.0	40	
	燐加苦土安3号	12-18-16-Mg	35	
	みなみエース側条	12-18-16-Mg3.0 有機6%	33	側条用
	育苗床土			
	稚苗苗代配合	4-6-5-Mg1.0		
	マルチサポート	Mg15.0 ケイサン12.0	20	
	みなみエース穂肥	10-5-10 有機10%	10	
	みなみエース穂肥	10-5-10 有機10%	10	

推奨農薬と農薬取締法に基づく農薬使用基準

記号	薬品名	農薬使用基準			散布方法
		希釈倍数・散布量(10a当り)	使用時期	使用回数	
A	テクリードCフロアブル	200倍・24時間種子浸漬	浸種前	1回以内	
B	タチガレエース粉	6g / 箱	播種前	1回以内	
C	ダコニール粉	8g / 箱(覆土混和)	播種前	1回以内	
D	Dr.オセプリンス箱粒	50g / 箱	移植前3~当日	1回以内	育苗箱処理
E	スパークスター1号粒	1kg	移植後5~15日	1回以内	
	ジョイスターフロアブル	500m	移植後5~20日	1回以内	
F	ラウンドアップハイロード	薬量250~500m	収穫14日前まで	2回以内	
	三共の草枯らし	薬量500~1000m	収穫14日前まで		
G	バスタ	薬量500~1000m	収穫7日前まで	2回以内	
H	スタークル粉DL	3kg	収穫7日前まで	3回以内	個人防除
I	ブラシンジョーカーフロアブル	8倍・800m	収穫21日前まで	2回以内	R・Cヘリ共同防除
J	スタークル粉DL	3kg	収穫7日前まで	3回以内	個人防除

平成16年産こしいぶき栽培指導基準

JA名:北蒲みなみ

地区名:安田

栽培形態:一般栽培

○この指導基準は安全・安心で高品質・良食味な米を生産するために、地域の実態に即してJA等で作成しました。  
 ○この指導基準を目安とした栽培を基本としますが、ほ場条件や気象要因等により基準とは多少相違する栽培となってもよいです。  
 ○使用する肥料・農薬はJAで適正な品目を推奨していますが、推奨品目以外でも同様に適正な品目であれば使用してもよいです。

栽培管理	3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
		【種子更新】 種子消毒A	浸種	土づくり資材の施用	元肥施用	育苗床土準備 B	育苗覆土消毒C	耕起	は種	農道・畦畔除草F	代かき	田植え・ドロオイムシ・いもち病防除D	水田除草剤散布E	中干し	溝切り	農道・畦畔除草F	追肥	穂肥施用	農道・畦畔除草G	いもち・カメムシ防除H(山手・赤坂地区)	穂肥施用	いもち・カメムシ防除I	農道・畦畔除草G	落水	収穫	稲わら鋤き込み	

推奨肥料と施肥基準

記号	肥料名	成分	施肥基準 (kg - 10a)	備考
		N - P - K		
	ソイル元気2号	0-11-12.5-Mg3.0 ケイサン19.0	40	
	燐加苦土安3号	12-18-16-Mg	35	
	みなみエース側条	12-18-16-Mg3.0 有機6%	33	側条用
	育苗床土			
	稚苗苗代配合	4-6-5-Mg1.0		
	マルチサポート	Mg15.0 ケイサン12.0	20	
	みなみエース穂肥	10-5-10 有機10%	10	
	みなみエース穂肥	10-5-10 有機10%	10	

推奨農薬と農薬取締法に基づく農薬使用基準

記号	薬品名	農薬使用基準			散布方法
		希釈倍数・散布量(10a当り)	使用時期	使用回数	
A	テクリードCフロアブル	200倍・24時間種子浸漬	浸種前	1回以内	
B	タチガレエース粉	6g/箱	播種前	1回以内	
C	ダコニール粉	8g/箱(覆土混和)	播種前	1回以内	
D	Dr.オセプリンス箱粒	50g/箱	移植前3~当日	1回以内	育苗箱処理
E	シェリフ1 <sup>キ</sup> 粒	1kg	移植後7~20日	1回以内	
	ジョイスターフロアブル	500m	移植後5~20日	1回以内	
F	ラウンドアップハイロード	薬量250~500m	収穫14日前まで	2回以内	
	三共の草枯らし	薬量500~1000m	収穫14日前まで		
G	バスタ	薬量500~1000m	収穫7日前まで	2回以内	
H	ラブサイドフロアブル	8倍・800m	収穫21日前まで	2回以内	R・Cへり共同防除
	ダントツフロアブル 混合	24倍・800m	収穫14日前まで		
I	スタークル粉DL	3kg	収穫7日前まで	3回以内	個人防除
J	ピームゾル	8倍・800m	収穫21日前まで	2回以内	R・Cへり共同防除
	MRジョーカーEW 混合	16倍・800m	収穫14日前まで		

平成16年産こしいぶき栽培指導基準

JA名:北蒲みなみ

地区名:京ヶ瀬

栽培形態:一般栽培

○この指導基準は安全・安心で高品質・良食味な米を生産するために、地域の実態に即してJA等で作成しました。  
 ○この指導基準を目安とした栽培を基本としますが、ほ場条件や気象要因等により基準とは多少相違する栽培となってもよいです。  
 ○使用する肥料・農薬はJAで適正な品目を推奨していますが、推奨品目以外でも同様に適正な品目であれば使用してもよいです。

栽培管理	3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
		【種子更新】	種子消毒A	浸種	元肥施用	土づくり資材の施用	育苗床土準備	育苗床土消毒C	は種	耕起	農道・畦畔除草F	代かき	田植え・ドロオイムシ・いもち病防除D	水田除草剤散布E	中干し	溝切り	農道・畦畔除草F	追肥	農道・畦畔除草G	穂肥施用	いもち・紋枯れ・カメムシ防除H	いもち・紋枯れ・カメムシ防除I	農道・畦畔除草G	落水	収穫	稲わら鋤き込み	

推奨肥料と施肥基準

記号	肥料名	成分	施肥基準 (kg - 10a)	備考
		N - P - K		
	ソイル元気2号	0-11-12.5-Mg3.0 ケイサン19.0	40	
	燐加苦土安3号	12-18-16-Mg	35	
	みなみエース側条	12-18-16-Mg3.0 有機6%	33	側条用
	育苗床土			
	稚苗苗代配合	4-6-5-Mg1.0		
	マルチサポート	Mg15.0 ケイサン12.0	20	
	みなみエース穂肥	10-5-10 有機10%	10	
	みなみエース穂肥	10-5-10 有機10%	10	

推奨農薬と農薬取締法に基づく農薬使用基準

記号	薬品名	農薬使用基準			散布方法
		希釈倍数・散布量(10a当り)	使用時期	使用回数	
A	モミガードC水和	乾物重量の0.5%粉衣	浸種前	1回以内	
B	タチガレエース粉	6g/箱	播種前	1回以内	
C	ダコニール粉	8g/箱(覆土混和)	播種前	1回以内	
D	Dr.オセプリンス箱粒	50g/箱	移植前3~当日	1回以内	育苗箱処理
E	スパークスター1 <sub>α</sub> 粒	1kg	移植後5~15日	1回以内	
	ジョイスターフロアブル	500m	移植後5~20日	1回以内	
F	ラウンドアップハイロード	薬量250~500m	収穫14日前まで	2回以内	
	三共の草枯らし	薬量500~1000m	収穫14日前まで		
G	バスタ	薬量500~1000m	収穫7日前まで	2回以内	
H	アミスターエイト	8倍・800m	収穫14日前まで	3回以内	R・Cへり共同防除
	トレボンエアー 混合	8倍・800m	収穫21日前まで		
I	MRジョーカーEW	16倍・800m	収穫14日前まで	2回以内	R・Cへり共同防除
	ブラシンバリダゾル 混合	8倍・800m	収穫21日前まで		

## J A北蒲みなみ「こがねもち」栽培基準

目標収量	540kg / 10a
穂数	370本 / m <sup>2</sup>
1穂粒数	82粒
m <sup>2</sup> 当たり粒数	30,000粒
登熟歩合	84%
千粒重	21.0g
整粒歩合	80%

育苗	うす播きで健苗を育成する 徒長しやすいので温度管理に注意する	登熟向上	施肥は1回目を出穂18～15日前、2回目を10日前に 1～3kg / 10a施用する 落水期を遅らせ、登熟の良い稲を作る
移植	移植は5月上旬の暖かい日に行う	収穫・乾燥調整	刈り遅れは穂発芽を助長するので、適期収穫する 急激な乾燥を避け、水分15.5%に仕上げる 選別網目は1.85mmを使用する 混種を防止するため、機械・設備の清掃を丁寧に行う
施肥	過剰生育をさせない 元肥は3～4kg / 10aとし根付肥や中間追肥は行わない		
水管理	中干し・溝切りを徹底する 中干し後は間断かん水により、根の健全化を図る	土づくり	稲わらを秋すき込みする
病害虫防除	いもち病に弱いので防除を徹底する		

～売れる米づくりをめざして！～

月	3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月																										
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下																								
栽培管理	【種子更新】 種子消毒A 浸種			土づくり資材の施用 元肥施用 育苗床土準備B			代かき 田植え・ドロオイムシ・いもち病防除D			水田除草剤散布E 溝切り 中干し			追肥 農道・畦畔除草G			穂肥施用 農道・畦畔除草G			落水 カメムシ防除I 農道・畦畔除草G			収穫			稲わら鋤き込み																										
水管理	保温的水管理～浅水更新水管理 																																																		
管理の要点				は種の1週間前			は種の1週間前			薄播きの励行			適期田植え			除草剤の適期散布			ワキの防止			間断かん水			目標穂数80%で開始 (軽い中干し)			葉いもち病 早期発見・早期防除			出穂前40日			幼穂長0.8～1cm			出穂前10日			出穂期			穂いもち病 早期発見・早期防除			落水は 出穂後3週間以降			出穂後積算温度1,000		

### 推奨肥料と施肥基準

記号	肥料名	成分	施肥基準 (kg - 10a)	備考
		N - P - K		
	ソイル元気2号	0-11-12.5-Mg3.0 ケイサン19.0	40	
	みなみエース配合	8-15-15-Mg3.0 有機6%	35	
	みなみエース化成	8-14-14-Mg4.0 有機20%	35	
	みなみエース側条	12-18-16-Mg3.0 有機6%	24	側条用
	育苗床土			
	稚苗苗代配合	4-6-5-Mg1.0		
	マルチサポート	Mg15.0 ケイサン12.0	20	
	みなみエース穂肥	10-5-10 有機10%	10	出穂前18～15日
	みなみエース穂肥	10-5-10 有機10%	10	出穂前10日

### 推奨農薬と農薬取締法に基づく農薬使用基準

記号	薬品名	農薬使用基準			散布方法
		希釈倍数・散布量(10a当り)	使用時期	使用回数	
A	テクリードCフロアブル	200倍・24時間種子浸漬	浸種前	1回以内	
B	タチガレエース粉	6g / 箱	播種前	1回以内	
C	ダコニール粉	8g / 箱(覆土混和)	播種前	1回以内	
D	Dr.オセプリンス粒	50g / 箱	移植前3～当日	1回以内	育苗箱処理
E	スパークスター1 <sup>キ</sup> 粒	1kg	移植後5～15日	1回以内	
	ジョイスターフロアブル	500m	移植後5～20日	1回以内	
F	ラウンドアップハイド	薬量250～500m	収穫14日前まで	2回以内	
	三共の草枯らし	薬量500～1000m	収穫14日前まで		
G	バスタ	薬量500～1000m	収穫7日前まで	2回以内	
H	農業振興協議会に於いて各地区使用薬剤を選定				R・Cヘリ共同防除
I	スタークル粉DL	3kg	収穫7日前まで	3回以内	個人防除



# JA北蒲みなみ「わたぼうし」栽培基準

目標収量	570kg / 10a
穂数	350本 / m <sup>2</sup>
1穂粒数	86粒
m <sup>2</sup> 当たり粒数	30,000粒
登熟歩合	84%
千粒重	22.5g
整粒歩合	80%

育苗	うす播きで健苗を育成する 温度管理に注意し徒長させない	登熟向上	施肥は1回目を出穂22~20日前、2回目を12~10日前に 2~3kg / 10a施用する 落水期を遅らせ、登熟の良い稲を作る
移植	移植は5月上旬の暖かい日に行う	収穫・乾燥調整	刈り遅れは穂発芽を助長するので、適期収穫する 急激な乾燥を避け、水分15.5%に仕上げる 選別網目は1.85mmを使用する 混種を防止するため、機械・設備の清掃を丁寧に行う
施肥	過剰生育をさせない 元肥は4~5kg / 10aとし根付肥や中間追肥は行わない		
水管理	中干し・溝切りを徹底する 中干し後は間断かん水により、根の健全化を図る	土づくり	稲わらを秋すき込みする
病害虫防除	いもち病に弱いので防除を徹底する		

~売れる米づくりをめざして!~

月	3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月																										
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下																								
栽培管理	【種子更新】 種子消毒A 浸種			元肥施用 土づくり資材の施用			育苗床土準備B 育苗覆土消毒C は種 耕起 農道・畦畔除草F			代かき 田植え・ドロオイムシ・いもち病防除D			水田除草剤散布E 中干し 溝切り 農道・畦畔除草F 追肥			農道・畦畔除草G 穂肥施用			穂肥施用			いもち・紋枯れ・カメムシ防除H 農道・畦畔除草G 落水			収穫			稲わら鋤き込み																							
水管理	保温的水管理~浅水更新水管理																																																		
管理の要点	種の1週間前			は種の1週間前			は種の1週間前			薄播きの励行			適期田植え			除草剤の適期散布			ワキの防止			間断かん水			目標穂数80%で開始 (軽い中干し)			出穂前40日			葉いもち病 早期発見・早期防除			出穂前2~20日			出穂前12~10日			出穂期			穂いもち病 早期発見・早期防除			落水は 出穂後3週間以降			出穂後積算温度975		

## 推奨肥料と施肥基準

記号	肥料名	成分	施肥基準 (kg - 10a)	備考
		N - P - K		
	ソイル元気2号	0-11-12.5-Mg3.0 ケイサン19.0	40	
	燐加苦土安3号	12-18-16-Mg	35	
	みなみエース側条	12-18-16-Mg3.0 有機6%	35	側条用
	育苗床土			
	稚苗苗代配合	4-6-5-Mg1.0		
	マルチサポート	Mg15.0 ケイサン12.0	20	
	みなみエース穂肥	10-5-10 有機10%	15	出穂前22~20日
	みなみエース穂肥	10-5-10 有機10%	15	出穂前12~10日

## 推奨農薬と農薬取締法に基づく農薬使用基準

記号	薬品名	農薬使用基準			散布方法
		希釈倍数・散布量(10a当り)	使用時期	使用回数	
A	テクリードCフロアブル	200倍・2.4時間種子浸漬	浸種前	1回以内	
B	タチガレエース粉	6g / 箱	播種前	1回以内	
C	ダコニール粉	8g / 箱(覆土混和)	播種前	1回以内	
D	Dr.オセプリンス粒	50g / 箱	移植前3~当日	1回以内	育苗箱処理
E	スパークスター1号粒	1kg	移植後5~15日	1回以内	
	ジョイスターフロアブル	500m	移植後5~20日	1回以内	
F	ラウンドアップハイド	薬量250~500m	収穫14日前まで	2回以内	
	三共の草枯らし	薬量500~1000m	収穫14日前まで		
G	バスタ	薬量500~1000m	収穫7日前まで	2回以内	
H	農業振興協議会に於いて各地区使用薬剤を選定				R・Cヘリ共同防除
I	スタークル粉DL	3kg	収穫7日前まで	3回以内	個人防除